

平成 21 年度研究チーム活動中間報告（第 2 回目）

「日本におけるマイノリティ企業家の研究」

No.112 研究幹事 高龍秀（経済学部）

本研究チームの課題は、日本のマイノリティとしての在日韓国・朝鮮人、在日中国人が創業し、目覚ましい成長を成し遂げた企業家を研究することである。遊技業のマルハン、MK タクシー、ソフトバンク、日清食品、アイリス・オーヤマなどがそれらの企業であり、マイノリティの企業活動は日本経済の欠かすことのできない一部分を構成している。本研究チームはまず、これらの企業に関する既存研究や資料を収集・分析してきた。最近、この分野では、永野慎一郎編『韓国の経済発展と在日韓国企業人の役割』（岩波書店、2010 年）や、韓載香『「在日企業」の産業経済史—その社会的基盤とダイナミズム』（名古屋大学出版会、2010 年）などが出版されている。研究チームでこれらの文献や各社に関する一次資料を読み込んで、マイノリティ企業の成長過程とその特徴を分析してきた。

これらマイノリティ企業の成長過程を分析すると、創業者は個性的なアントレプレナー精神をもち、マイノリティとしての様々な逆境を乗り越え、企業を発展させてきたという共通点をもっている。創業者の強烈な起業家精神が企業成長の原動力であった。しかし、いくつかの企業では創業者が死亡、または高齢化し次世代に継承されている場合も多く、創業者が存命中に肉声を記録に残す意味が重要になっている。本研究は、マイノリティの企業の創業者へのインタビューを行い、そのアーカイブスを作成し、マイノリティの企業家の比較研究を行うことを目的としている。

2009 年度中には、日本のプラスチック用品最大手に成長したアイリス・オーヤマの大山専務取締役と、堂島ロールの創業者であり現在の社長金美花氏にインタビューした。アイリス・オーヤマは 1958 年に東大阪で創業された大山ブロー工業を母体に行っている。1964 年に創業者が急逝したのち、その長男の大山健太郎氏（アイリス・オーヤマの現会長）が経営を継承した。大山健太郎氏は 4 人の弟たちと事業拡大に努めてきた。特にプラスチック用品のメーカー機能と問屋機能をあわせ持つ独自の「メーカーベンダー」システムを確立し、全国のホームセンターなどに配送する物流システム、次々とアイデア商品を開発する商品開発力で今日までの成長を成し遂げてきた。

これらのインタビューを DVD に収録・編集しアーカイブスとすることで、今後の研究に広く活用できる基礎資料を作成中である。2010 年度は、MK タクシーの創業者である青木会長はじめ、何人かの経営者へのインタビューを準備しており、基礎資料を収集し分析している。これらの研究は、日本経営史においてあまり分析されなかったマイノリティ企業に関するアーカイブスという一次資料を提供することで、今後の日本経営史

に貢献できるという効果をもっていると思われる。